

# 胃癌ロボット手術

2015年から胃癌に対するロボット腹腔鏡手術を開始しています。

ロボットといってもロボットが勝手に手術するわけではなく、外科医が3次元腹腔鏡をみながら行う手指の動きを忠実に患者体内に挿入されたロボットアームで再現する装置です(写真1)。

ロボット装置の多関節機能鉗子により、通常の腹腔鏡手術では施行できない角度での難しい剥離・郭清操作が可能です。もともと前立腺癌などの深部骨盤手術をターゲットに開発・改良された装置で、米国はもとより、日本においても前立腺癌手術の多くがda Vinci<sup>®</sup>ロボットシステムを使用して行われるようになり、術中出血量の大幅な減少等の効果をもたらしています。

北海道がんセンター消化器外科では、難易度の高い胃癌手術においては、da Vinci<sup>®</sup>ロボットシステムが有効であると考えています。多関節機能鉗子による精緻な操作が、正確なリンパ節郭清を要する胃癌手術において特に有効と考えられます。ロボット手術の長所を生かすことにより、より質の高い胃癌手術を実現可能です。

現在のところ、胃癌についてロボット手術はまだ保険承認を受けていませんので臨床試験としての保険外の自費診療となっております。

長期成績の評価はこれからですが、リンパ節郭清個数、術後在院日数、術後合併症率、等の短期成績はきわめて良好です。

御希望の方、興味のある方はお気軽に消化器外科外来に御相談下さい。

**写真1:** (左)患者さんに装着されたロボット装置の監視・補助を行うスタッフ

(右) コンソールで手術を行う術者。手の動きがロボット装置で患者さんに正確に再現される。

